小学校６年　算数　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類 ＼ 設定通過率の	観点別			領域別				計
	考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図　形	数量関係	
＋10％ より高い	3	1	1	0	1	1	3	5
±10％ の範囲内	1	7	5	5	4	1	3	１３
－10％ より低い	1	0	1	2	0	0	0	2
計	5	8	7	7	5	2	6	２０

（２）考察

①　全体について

ア　共通問題（分数の意味と表し方）をはじめとして、基礎的・基本的な知識や技能の定着が図られている。

イ　20問中18問が設定通過率の「±10%の範囲内」または「＋10%より高い」ところにあり、学習状況はおおむね良好である。

②　成果

ア　学校間で差が見られ、課題であった円の面積の求め方、多角形の内角の和の求め方など、継続して出題している問題については、大きく改善が図られている。

イ　新学習指導要領で移行・追加された「起こり得る場合」についても、各学校でよく習熟が図られている。

ウ　観点別の結果から、各学校では数学的な考え方と表現を一体として捉え、指導していることがうかがえる。

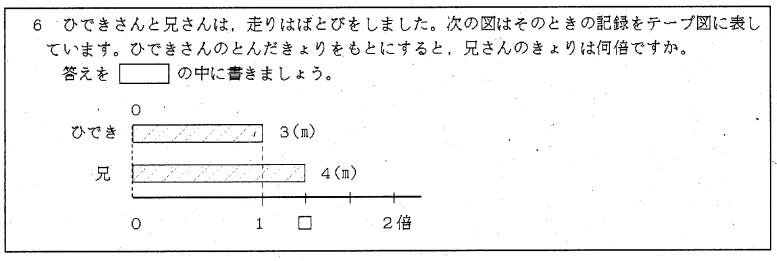
③　課題

ア　割合を求める場合の除法の意味理解に、学校間で差がみられる。

イ　最大公約数についての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、筋道立てて問題を解決することができていない。

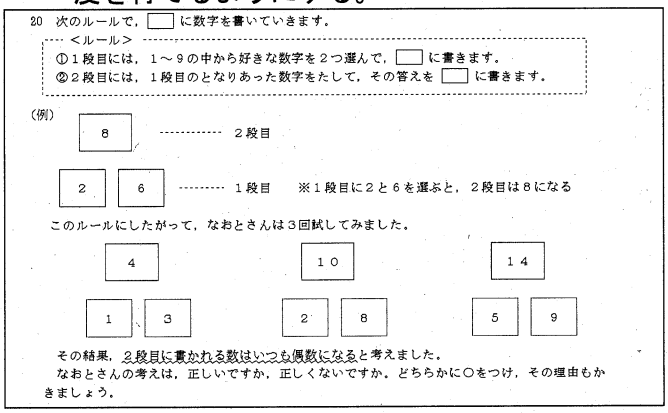
（３）今後の指導

ア　倍という表現を含む文章の数量関係を捉えることができるようにする。



・何倍かを求める場合は、除法を用いることが分かっていても、何が基準量で何が比較量かを捉えることができないことが多い。指導にあたっては、まず数直線や線分図などに数量を表して、それらの関係を調べる活動を取り入れたい。そして、「何の何倍が何です」というように言葉に表現し直したり、乗法の式に表現したりする活動を取り入れたい。

イ　事象から規則性を見いだし、導き出した結果が条件に照らして適当か否かを確かめる態度を育てるようにする。



全国学力・学習状況調査Ｂ問題の出題趣旨を生かした問題

・読解力を問う出題であったが、導き出した結果が正しくない理由について、反例をあげて説明することはできるようになってきている。今後も、指導に当たっては、導き出した結果をそのまま答えとしてしまうのではなく、結果の意味を考えたり、それが問題の条件に合っているか確かめたり、振り返って考えたりする活動を取り入れることが大切である。